

3

木村さんの学級では、人と動物との心の交流が描かれていた物語を友達と紹介し合うことにしました。木村さんは、棕鳩十の「金色の足あと」を選びました。次は、「物語「金色の足あと」のあらすじ」、「木村さんの考え」、「物語の最後の部分」、「ふせん①」から「ふせん④」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

### 【物語「金色の足あと」のあらすじ】

山でつかまり、正太郎の家にとらえられた子ギツネは、人間になつかず、えさを食べようともしませんでした。子ギツネの親たちは、正太郎の家の床下に巣をつくって身をかくし、子ギツネに乳を飲ませたり、食べ物にあたえたりします。そして、子ギツネがながれた丸太をかじって、何とか助け出そうとします。正太郎は、必死に子ギツネを救おうとする親ギツネの深い愛情に心を打たれ、そっとえさをやりながら、応援していました。しかしある日、正太郎の父が、親ギツネを見つけ、銃でねらいます。正太郎は、とっさに銃身にとびつき、親ギツネを助けたのでした。

### 【木村さんの考え】

人と動物との心の交流は、この物語の最後の部分に一番表れていると思う。正太郎とギツネの行動や情景に気をつけてもう一度読み、心の交流が分かるところをふせんにまとめよう。



木村さん

(棕鳩十「金色の足あと」による。)



【ふせん①】

「うろたえました」という言葉  
から、  
気持ちが伝わってくる。

---

(棕鳩十「金色の足あと」による。)

↓

【ふせん②】

「しきりに」という言葉から、ニひきの  
キツネが正太郎を助けようと、必死に  
働きかけているすがたが分かる。

↓

【ふせん③】

「じじっとまぶたのおくがあつくなる」  
というところから、正太郎の感動が  
伝わってくる。

(棕鳩十「金色の足あと」による。)

【ふせん④】

「まばゆい朝日」と「足あとは、金色にかがやいて」というところから、正太郎がキツネたちをかがやかしいものと感じているということが分かる。

(棕鳩十「金色の足あと」による。)

—【ふせん①】の  に入る内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 安田さんが、子ギツネのいないことにおどろき、もらわれていったことにほっとしている
- 2 正太郎が、子ギツネのいないことにおどろき、もらわれていったことにほっとしている
- 3 安田さんが、子ギツネのいないことにおどろき、どこにいったのかを心配している
- 4 正太郎が、子ギツネのいないことにおどろき、どこにいったのかを心配している

二 木村さんは、【ふせん②】を書いたあと、文の意味をもう一度確認かくにんするために、——部イとウの文を読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

- (1) 次のイの文について、~~~~~部がくわしくしている言葉として適切なものを、あとの1から3までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

(棕鳩十「金色の足あと」による。)

1 ずいぶん

2 時間が

3 すぎました

- (2) 次のウの文について、~~~~~部がくわしくしている言葉として適切なものを、あとの1から3までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

(棕鳩十「金色の足あと」による。)

1 正太郎の

2 ほおやくちびるを

3 なめまわし

三 木村さんは、【ふせん③】に、「じじっとまぶたのおくがあつくなる」というところから、正太郎の感動が伝わってくる、と書きました。木村さんは、正太郎が何に感動したと考えていますか。その内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 正太郎がごごえないように、親ギツネがからだの上ののってあたためたこと。
- 2 正太郎が谷の底に落ちてしまいそうになったところを、親ギツネが助けたこと。
- 3 親ギツネが正太郎のまぶたをなめ、まぶたのおくまであたたかくなったこと。
- 4 親ギツネがとらえられた子ギツネを助けるために、丸太をかじり続けたこと。

四 木村さんは、――部オを――部ア、エと関係づけて読み、【ふせん④】を書きました。

木村さんが【ふせん④】に、正太郎がキツネたちをかがやくかしのものと感じている、と書いた理由の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 木村さんは、まばゆい朝日に照らされて、深い林のおくまで春の雪がきらきらとかがやいていると  
考えたから。

2 木村さんは、正太郎が親ギツネの行動に心を動かされ、キツネの親子の幸せを喜んでいると  
考えたから。

3 木村さんは、「キツネの親たち」、「ニひきで」、「キツネども」という言葉から登場人物の様子が  
分かると考えたから。

4 木村さんは、朝日で金色にかがやく風景に、正太郎の父のすがすがしい気持ちが表れていると  
考えたから。